

〔天和木草〕十二馬醉木

葉ハ忍冬ノ葉ニ似タリ又シキミノハニ似テ細也味苦ク澀ル春ノ末青

白花開テ下ニサガル少黄色ヲ帶ブ微毒アリ馬此葉ヲクラヘバ死ス西土ノ俗ハ此木ヲシバト云

〔古今要覽稿〕草木あせびあしみ 馬酔木

あしび一名あしみ一名馬酔木萬葉集漢名椴木處々山中自生多くして今花戸莽草の代りとなして墳墓に備ふ花ある時は插花にも用ふこれ右の山礬の類にて花信風大寒三候の山礬と共に稱すべし松岡玄達一家言に一種稱椴木者花葉形狀全同山礬而有圓葉尖葉之二種但以花不香爲異已此又山礬下品而益軒翁大和本草以瑞香花爲山礬者誤矣また和漢三才圖繪にも山礬未詳蓋沈丁花之類也といひて是となすことなし玄達の山礬一種椴木に充しはこれ本草綱目灌木類山礬の條下に椴木を出せりこの椴木にあせみを充るを是とすべし蘭山も椴木に充たりあせみの荅は早く冬の中より生じて白し故にこれを插花とすその開くは雨水より啓蟄盛なり此花も穂をなして長さ二三寸垂て開くその狀丸くして白く先黄なり其花開く時に去年の實も落ずして存するもあり葉は椴ヒサカキに似て細し其葉の色に黄色を帶て薄きあり又深綠色なるあり花は異ならず又眞淵の説にあせびとみは木瓜の類にて脚氣の藥に用て功ありといへり又下總にては鹽藏して梅干のごとくに食ふ者多しといへりとみは本草綱目山果類木瓜の條下に出す榧子一名木桃一名和圓子にして和名とみ一名のほけ一名くさぼけ又こほけちなしほけとも呼て處々山野生せざる事なく多くあるものにて本草綱目啓蒙にも山野に多し高一尺許叢生す廣原の者は三四寸に過ぎず山中の者は三四尺に至る枝に刺多し葉は貼幹海棠に似て小し春新葉出て後花を開く形小にして五瓣重瓣なる者稀なり大さ八分許紅黄色夏秋も不時花あり花後圓實を結ぶ夏に至て熟す大さ一寸許頭尾共に凹なり藥舖には横に